

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

山梨県 富士吉田市立吉田中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年7月10日 (火)
- ク ラ ス : 2年1組 (36名)、2年2組 (35名)
- オリンピアン : 桧野 真奈美 先生 (ボブスレー)



■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、2時間を通してオリンピックをより身近に感じてほしいと授業の目的を確認。
- ・オリンピックシンボルやオリンピックバリュー、近代オリンピックを復興させたクーベルタンの世界平和への思いを分かりやすく解説。
- ・ストレッチの後、ラダー (6～7種目) トレーニングを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班対抗そりりレー (全3回) を実施。各回終了後、結果と作戦内容を発表。
ルール : 2人組でそり (バスマット) の上に座った状態で乗り、もう一人が紐を腰に巻いて引っ張りながら進む。②約7m先に置かれたコーンに到着したら役割を交替し、スタート地点に戻る。③最後の2人がゴールしたらその場で全員座る。
桧野先生から、紐を持つ手の間隔を少し空けることや、そりに乗る際、お尻と左右の足のバランスを取って体重を分散させることもポイントになるとアドバイスした。

4. まとめ



- ・授業の冒頭に伝えた、オリンピックバリューが意識できたかを確認。順位以上にどのように取り組んだのか、全力で臨めたのが大切である。失敗しても「何故失敗したのか」その原因を考えることが次に繋がり、次の課題が見つかった時は、それをクリアしていくことで、さらにステップアップできる。これらの考えはスポーツ以外にも活かせるため、今後の学校生活に活かしてほしい。
- ・座学の時間では、運動の時間とは違う形でさらにオリンピックについて学んでいくと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリンピックバリューを意識しながらさらにオリンピックを身近に感じてほしいと授業の目的を確認。映像等を見せながらボブスレー競技について説明。
- ・日本では過去に東京、札幌、長野でオリンピックが開催され、次回の東京大会で4回目となる。開催数は世界で3番目に多いと説明。
- ・オリンピックバリューの意味を改めて説明し、松野先生がスピードスケートや陸上競技等さまざまな競技の経験を踏まえて自身にとってのオリンピックバリューを説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：岳麓祭(学園祭)で良い結果を収めるために何が必要かを書き出してみる
 発表：練習の課題を次につなげる、他のクラスより倍頑張る(エクセレンス)、練習から全力で声掛けをする、より良くするためにコミュニケーションを取る(フレンドシップ)心を込めて応援する、相手の気持ちを考える(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではない。この授業をきっかけにしてオリンピックバリューを日常生活の中に見出してほしい。
- ・東京大会では山梨県にも海外の選手が事前合宿等で訪れる。オリンピックを成功させるには、選手だけではなくみる人も支える人も不可欠なため、特別なことや他人ごとと考えず、チャンスと捉えてオリンピックに積極的に参加してほしい。
- ・これから先自分の思い通りにならない事が起きるかもしれないが、苦しい時こそもう1回頑張ることで、その先に過去を振り返れば単なる通過点と思えるようになる。1回の努力は誰でもできるが、努力を継続できるようになってほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日：平成30年7月11日（水）
- ク ラ ス：2年3組（35名）、2年4組（36名）
- オリンピアン：伊藤 俊介 先生（水泳・競泳）



授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、2時間の授業を通してオリンピックについて学んでいくと授業の目的を確認。
- ・3つのオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）を説明し、運動の時間は身体をただ動かすだけでなく、オリンピックバリューをいしきして取り組むよう伝える。
- ・タッチ鬼(45秒×2回)を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳び(90秒×全3回)を実施。ルール：引っかけたら1から数え直す、90秒間で最も多く連続で跳んだ数を競う。各回終了後、結果と作戦内容を発表。
- ・2回目終了後、伊藤先生から縄を回すスピードが速いように感じる等アドバイスした。



4. まとめ



- ・運動の授業を通して、時間が経つにつれて自然に声を掛け合うなど、皆がより良くしようと努力し、工夫していた点が良かったと振り返る。結果も大切だが、結果以上に考えることが重要であり、自分たちが望んだ結果が出なかったチームも、声を掛け合い、助け合っていたことがより大切なことで、「失敗は成功の元」と伝える。
- 座学の時間は、頭を使ってオリンピックバリューについて考えていくと伝え、授業終了。





■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・アトランタ大会では、あと1秒でメダルを獲得できた。様々な成功や挫折を経験し今がある。
- ・近代オリンピックの発祥を説明しながらクーベルタンについても触れる。
- ・2度目の開催となる2年後の東京大会は、選手だけのものではない。皆も応援やボランティア等関わることがあるので、様々なことを経験してほしいと伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：体育祭で良い結果を出すために、どんなことが必要かオリンピックバリューに当てはめて書き出してみる
 発表：他のクラスの良いところを考察し、自分達のクラスに取り込む、できた事をそのままにせずより良くしていく(エクセレンス) 仲間との時間を大切にす
 る、相手の意見を尊重する(フレンドシップ)周りに感謝の気持ちを持って行動する、他のチームの良いところを真似する(リスペクト)

4. まとめ



- ・サッカーワールドカップの会場ゴミを拾う日本人サポーターの様子を紹介しながら、今日の授業を通してオリンピックバリューはオリンピックだけでなく、皆も日常生活の中で実感できたかを確認。
- ・9月の体育祭では、1勝を目指してクラス一丸となって頑張ることを目標に、オリンピック教室での学びを今後の人生にも活かしてほしい。
- ・東京2020大会では、山梨県にもさまざまな外国の選手が事前合宿で訪れる。海外の選手に積極的に声を掛ける事でオリンピックがより身近に感じてほしいと伝え、授業終了。

実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年7月11日 (水)
- ク ラ ス : 2年5組 (35名)
- オリンピアン : 岡里 明美 先生 (バスケットボール)



■授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、皆と一緒に楽しい時間を過ごしながらオリンピックについて学んでいく、授業の目的を確認。
- ・オリンピックバリューの意味を簡単に説明し、運動の授業は、「失敗を恐れず一生懸命チャレンジする」「班毎に協力し、ルールを守って取り組む」「先生が話をしている時は床にボールをつかない」の3つを意識して取り組むことを確認。
- ・ボールを使ったストレッチを実施した後、2人1組または3人1組になりボール取りゲームを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・パス回し競争 (20秒×3回) を実施。6班対抗で連続して何回パスが連続して続けられるかを競争する。
- ・シュート競争 (全3回) を実施。6班対抗でより速く5つのボールシュートできるかを競争する。
- ・岡里先生から、全力で協力しながらチャレンジするようアドバイスする。

4. まとめ



- ・主運動を (パス回し競争、シュート競争) を通して、1回目より2回目、2回目より3回目と、各班が皆で話し合い、協力し、ルールを守りながら一生懸命取り組んでいたと振り返る。
- ・座学の時間では、オリンピックバリューの3つの言葉について、運動の時間で皆に取り組んでもらったことがどのように関係しているかを考えていくと予告し授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・アトランタ大会に出場するまでの経験を踏まえ、皆と一緒にオリンピックの価値とは何か考えていく、と授業の目的を確認。
- ・オリンピックのイメージを発問しながら、近代オリンピックの目的やオリンピックシンボル、オリンピックバリュー等について説明。
- ・オリンピックバリューを説明しながら、よりよく生きるために大切な価値を増やしてほしいと伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問①：運動の時間を振り返りオリンピックバリューに当てはまる行動や考えなどを書き出してみる
 発表①：1位が決まっても最後まで諦めなかった(エクセレンス)良いプレーをした時に褒め合えた(フレンドシップ)他のチームの応援をした(リスペクト)
 発問②：日常生活の中でこれから頑張ろうとしていることを書き出してみる(部活、習い事、学校行事等)
 発表②：試合が終わった後にベンチを整える(エクセレンス)授業がわからない人にアドバイスする(フレンドシップ)ルールやマナーを守ること(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活の中にもある。オリンピックバリューを意識することで人生をより良く生きることにつながる。他人へのリスペクトだけでなく、自分自身へのリスペクトも忘れずにいてほしい。
- ・成功・失敗問わず、今後の行動全てが皆の財産になる。失敗した経験を活かして成功につなげていくこともできる。
- ・東京2020大会では富士吉田市がフランスのラグビーチームのキャンプ地になる。身近にオリンピックを感じられる貴重な機会なので、ボランティアや応援等さまざまな形で関わり、オリンピックを全力で楽しもうと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 集合写真

2年3組



2年4組



■ 集合写真

2年5組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



■ 修了書贈呈

